

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト 実施報告書

報告日	平成27年3月19日
学校名	北海道教育大学附属特別支援学校
PTA会長名	羽川 昌久

実施概要	実施活動名	障がいのある生徒の理解啓発を目的とするアート活動の支援
	実施日時	平成27年1月20日（火）～1月23日（金）
	実施場所	函館駅多目的ホール（通称：イカすホール）
	実施目的	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部の選択学習で描いた美術作品をギャラリー展示することで、多くの市民の方にも本校生徒の作品をご覧になっていただける機会としたい。また、ギャラリーの立地から、観光で函館を訪れたお客様にも、障がいのある生徒の作品を楽しんでいただけるのではないかと考えた。マスコミ等にも趣旨に賛同していただき協力を仰ぎ、広く障がい児、者についての理解を深める機会になるものと考え、実施の目的とした。
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部の選択学習（アート）で、本年度、描かれた美術作品の中から数点を選び展示をする。 ・総合的な学習の時間を活用し、普段、ギャラリーや美術館等に足が向かない生徒についても作品に触れられる機会とする。 ・大学の小栗ゼミの学生にも協力をしていただき、作品の内容等のキャプションを展示する。
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・搬入が冬休み中ということもあり、複数の美術教師による展示の準備ができる。 ・小栗ゼミ（日本美術史）の学生に、キャプション作りや展示等で協力をお願いする。 ・JR東日本（函館支社）の協力のもと、展示スペースを貸与していただく。 ・ラジオや新聞等のマスコミにも協力をいただき、啓発活動を実施する。 ・ギャラリーに展示することを考慮し、展示場所に見合った額等、作品の見せ方を工夫する。 	
参加人数	生徒：選択（アートグループ）6名、地域活動（宙グループ）9名、小栗ゼミ（学生）3名	

報告事項	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道教育大学附属特別支援学校高等部アート作品展 函館駅多目的ギャラリー（イカすホール）での、高等部生徒の描いた美術作品の展示。 1月20日～1月23日の4日間で開催した。なお、搬入は1月19日、搬出は1月24日。
	結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリーでの展示を計画していたことから、額縁及びパネル、マットの購入は必須であった。また、貸画廊の賃貸料金についても展覧会の開催には大きな課題となっていた。その意味からも、今回の助成金は大変に有益であり、結果として教育の場のみならず、地域を含めた新たな価値の創生につなげることができたと考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>函館駅多目的ホールの利用については、JRの担当の方にも今回の趣旨に賛同していただき、この期間中、ギャラリーが空いていたこともあって無料で会場をお借りすることができた。また、ギャラリーの開閉館の時間についても、学校の勤務時間等の都合に合わせていただいた。</p> <p>開催の告知等については、本校の広報企画部（校務分掌）から早い段階で各新聞社（北海道新聞社・函館新聞社・北海道通信社）へ連絡していただいた。それにより、開催前の取材等も含め、極めて円滑に対応することができた（添付書類参照のこと）。また、本校が定期的に関わらせていただいているコミュニティFMにも出演し、作品展の告知をすることができた。</p> <p>作品について、その評価の観点では「障がいのある」生徒が描いた作品というイメージが、必ずしも正しい評価につながらないことも考えられた。そこで、小栗ゼミ（日本美術史）の学生に補足のキャプションを制作していただくことで、観覧する方への一助となるよう工夫をすることができた。</p> <p>展覧会の初日は、3学期の始業式ということもあり下校途中の生徒及び保護者等、多くの方に来場していただいた。また、FMラジオを聴いたという市民の方や駅前に買い物の帰りに立ち寄られた方、</p>

大きな旅行ケースを引いた方やサラリーマン風の方等、駅という立地も幸いして多岐にわたる方々に作品を楽しんでいただくことができた。

期間中には、昨年、函館蔦屋書店で行われた本校卒業生、佐久間智之さんの展覧会でお世話になった公立ほこだて未来大学の先生や、同じく函館赤レンガ倉庫での展覧会でお世話になった金森商船の方も来場し、コメントをいただくことができた。また、たまたま観光で訪れたという方や帰省で来函しこれから戻られるという方等、とても感動したとおっしゃっていただいた。

最終日は、総合的な学習の時間を活用し、展覧会に出品した本人と学級の友達と一緒に作品を鑑賞することができた。また、友達に称賛される場面も見られ、恥ずかしそうにしている姿等は生徒の普段とは違った一面に気付くことができた。



所感

数年前から、生徒が学習活動の中で創作した美術作品について、その地域の文化的価値を再評価し、作品の保存、著作物としての管理、収集、それらの理解啓発等とその方法を模索しているところであった。この度の「カンガルーシップ活動助成金事業」については、理解啓発という観点で、すでに先行し継続して実施している点、また、他校の実践を広く公開していた点からも大変に参考になった。

これまで、文化祭では、既存の古い額縁や100円均一ショップ等の簡易のパネルを使用し展示をしていたが、生徒の表現力の伸長とともに作品の数やサイズ等も拡大し、それら作品を飾る額縁、パネルの購入資金については苦慮しているところであった。また、先に述べたように一般的な画廊の賃貸価格は、単一の学習活動の範疇を超えているのではないかと私個人で判断していたため、教育活動として積極的に取り組もうとしてこなかったことは反省すべきである。そのことについては、無料で貸与し協力していただける企業や団体が地域にあるということ、また、主旨を説明し、その努力をすることで応えてくれる地域の社会資源があるということに本事業を介して気付くことができた。

他校の実践にあるような、学校紹介ビデオ等の上映についてはギャラリーの雰囲気等を配慮し今回は実施しなかったが、今後、このような機会があれば検討してみたいと考える。

作品展については、このような事業があるということで積極的に後押しをしていただいた副校長、並びに北海道教育大学函館校で日本美術史を担当している本校校長、同じ美術教科担当で展示等の助言もいただいた学部主事等々、多くの方の支えがあり実現できたと考える。何より、日々の学習の中で、すばらしい作品を創作している生徒たちに改めて感謝をしたい。



カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成27年3月19日		
学校名	北海道教育大学附属特別支援学校		
学年		氏名	

【作品展に出品した生徒の感想】

- ・4月から、固形の水彩絵具を使って絵を描いています。始めは画用紙に描いていましたが、今はハガキの大きさに描いています。皆さんに見ていただいて、とても嬉しいです。（高1：男子）
- ・友達や先生の顔を描きました。「似ているね」と言われると嬉しいです。ありがとうございました。（高2：男子）

【作品展を見学した生徒の感想】

- ・とても上手に描いていました。「いいな」と思いました。
- ・とても上手でした。
- ・上手いと思いました。すごいと思いました。僕も描いてみたいです。

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成27年3月19日
学校名	北海道教育大学附属特別支援学校
氏名	

【鑑賞された方からの感想（作品展に置いていたノートより）】

- ・この子達が描いた絵が大好きです。素直で力強くて、感動します。以前、作業所に勤めていたおばさんより。
- ・素敵な絵をありがとう…。
- ・直球で伝わってきました。素晴らしいですね。
- ・上手だ。すばらしくいいね…等々